

会 議 録

会議の名称		令和4年度第3回スポーツ推進審議会		
開催日時		令和5年(2023年)3月15日 開会10:00 閉会11:15		
開催場所		防災会議室2		
事務局(担当課)		市民部スポーツ振興課		
出席者	委員	酒井利信委員(会長)、齊藤まゆみ委員、 高野文男委員、片岡千恵委員、萩原武久委員 石黒澄子委員、木村一男委員、野村友香里委員、 木村陸委員、大久保克己委員		
	その他			
	事務局	稲葉市民部次長、岡野課長、宮下課長補佐、 横田参事(スポーツ協会事務局長)、 武笠スポーツ施設整備室長、瓜阪スポーツ施設整備室係長、 中山係長、竹前係長、藤本主任、吉崎主任		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由				
議題		第2次スポーツ推進計画策定について		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1	開 会		
	2	あいさつ		
	3	議 事		
	【審議事項】	第2次スポーツ推進計画策定について		
	4	そ の 他		
5	閉 会			

<審議内容>

○事務局：

本日はお忙しい中お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。
野村委員がまだお見えになっていませんが定刻となりましたので、ただいまから、令和4年度第3回つくば市スポーツ推進審議会を開会いたします。

本日司会を務めさせていただきますスポーツ振興課長の岡野と申します。
どうぞよろしくお願いいたします。審議に入る前にお知らせをいたします。
本審議会は、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例に基づき、原則公開する会議となっております。傍聴を希望される方がいらっしゃいましたら、会場にお通ししますので、ご承知おきいただきたいと思います。

また、議事録作成のため会議中は録音をしております。お手数ですが、ご発言の際は、お近くのマイクの電源を入れていただきまして、ご発言をしていただくようお願いいたします。

それでは開会にあたりましてスポーツ推進審議会、酒井会長よりご挨拶をお願いいたします。

○酒井会長：

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。本日は資料1、第2次つくば市スポーツ推進計画という資料を中心にご議論をお願いいたします。これは向こう10年のスポーツ推進計画をまとめるという上で、今回がステップとしては2段階目になります。非常に重要な議論になると思いますので、よろしくお願いいたします。また今日はコロナのこともありますので、あまり長い会議は予定しておりませんが、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局：

ありがとうございました。それでは早速議事に移りたいと思います。議事進行につきましては、つくば市スポーツ推進審議会条例第6条第2項の規定に基づきまして、会長に議長をお願いすることとなります。酒井会長よろしくお願いいたします。

○酒井会長：

はい。それでは、本日の会議の成立を確認するために、委員の出席状況についてご報告をさせていただきます。本日のつくば市スポーツ推進審議会委員12名のところ、10名の出席となっております。出席委員数が半数以上に達しておりますので、つくば市スポーツ推進審議会条例第6条第3項の規定により本会議が成立することをご報告いたします。

それでは次第に基づきまして議事を進めて参りたいと思いますが、資料1の第2次スポーツ推進計画の2-1から2-3までについて、事務局から説明をお願いします。

○事務居：

本日はお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。スポーツ振興課の中山と申します。着座にて失礼いたします。「第2次つくば市スポーツ推進計画」という冊子になったものをご覧いただきながら進めさせていただきます。

はじめに、「スポーツ推進審議会におけるスポーツ推進計画審議スケジュール」という1枚の資料をご覧ください。前回、9月の審議会で、第1章のつくば市スポーツ推進計画についてという部分をご審議いただきました。今回は第2章の「スポーツを取り巻く現状と課題」について、ご審議をお願いいたします。なお令和5年度のスケジュールも記載しておりますので、ご確認いただけたらと思います。

それでは、資料1の「第2次つくば市スポーツ推進計画」をご覧ください。まずは、「スポーツを取り巻く社会情勢の変化」についてです。資料の2ペー

ジになります。最初に、近年の国の動向についてですが、大きなものを3つ取り上げました。1つ目は、これから策定するつくば市スポーツ推進計画の上位計画となる第3期スポーツ基本計画の策定。そして2つ目がスポーツ施策を総合的に推進するために発足しましたスポーツ庁について。3つ目は、大会史上初の延期開催となりました東京2020オリンピックパラリンピック競技大会についてです。続きまして、次のページ、県の動向です。1つ目ですが、茨城県では現在スポーツのみの計画は策定しておりません。総合計画の中で、スポーツ振興について定められています。なお1つ目については、県の総合計画に記載されているものです。2つ目はジュニア世代から育成を行うトップアスリート育成事業です。3つ目として、つくば市におきましても力を入れているサイクル事業のいばらきサイクルツーリズム構想を記載してございます。続きまして、4ページに進んでいただきまして、スポーツに関連しました社会情勢について、7つ挙げさせていただきました。1.新型コロナウイルス感染症の影響、2.子供の体力低下、3.デジタル技術革新の進展、4.共生社会の実現、5.学校部活動と、新たな地域クラブ活動、6.スポーツビジネスの成長、7.SDGsへの貢献です。

次に6ページに進みまして、つくば市が現在のスポーツ推進計画の4つの基本戦略に基づき、各施策を進めて参りましたが、その戦略ごとに実績と評価をまとめました。

基本戦略1は、ライフステージに応じた活動の推進です。スポーツ実施率や障害者のスポーツ、障害者スポーツの認知度など、目標には届きませんでした。各世代に合わせたスポーツ教室特に高齢者のスポーツにおいては多く開催され、充実した内容となりました。また、昨年度につくばマラソンでは、アプリを活用したオンライン大会を実施するなど、新たな試みを行うことができました。さらに学校部活動改革の取り組みについては、全国の先導モデルとして注目されています。

基本戦略2はスポーツを通じた交流と組織基盤の強化です。イベントや団体の支援について、多くは「する」スポーツに対するもので、「する」「みる」「ささえる」の3つの視点からはバランスが偏る結果となりました。また、交流センターで行われている人気の高いスポーツ教室は、民間のスポーツクラブ等の立地が比較的少ない地域の市民に対して、スポーツ活動と交流の促進に大きく貢献していると考えております。さらに、つくばマラソンは、ランナーの約7割が県外から訪れておりまして、全国のランナーとの交流を図ったり、観光推進などにも寄与しています。

基本戦略3は、スポーツ環境の整備充実です。スポーツ施設の適切な管理や新たな施設の整備検討、指導者の養成、資質の向上、スポーツ教室の民間スポーツクラブ等との差別化などを主な課題としまして、様々な事業に取り組みました。しかし、スポーツ施設の平日の低稼働率解消や学校体育施設、一般開放での不効率な運用の改善は課題として、残ったままとなっております。また、指導者の養成と資質の向上につきましては、スポーツ協会において、スポーツ少年団指導者資格取得者を増やしていく取り組みを、積極的に進めており、人材育成に貢献しています。

次の8ページです。基本戦略4は、スポーツ団体との連携協働の推進です。筑波大学、筑波学院大学、つくばFC、つくばユナイテッドサンガイアや茨城ロボッツ、弱虫ペダルサイクリングチーム、大塚製薬の8社とそれぞれ連携協定を結んでいます。また、国、県、筑波大学と連携協働のもと、国体の開催、筑波大学と連携したつくばマラソンの実施、民間企業と合同開催したスポーツフェスティバルや、つくパラなど、様々な取り組みを行って参りました。今後はスポーツに関して、国内トップレベルの専門家やアスリートが多く在籍します、体育系の研究機関がある筑波大学の強みを生かした新たな連携などが考えられるかと思えます。トップスポーツチームとの連携では、「する」「みる」「ささえる」の環境を進めていく必要があると考えております。

9 ページです。成果指標については、残念ながら、目標値を達成することができませんでした。

次に 10 ページです。スポーツを取り巻く現状として、昨年実施しました市民アンケートの結果、今年初めに実施したスポーツ団体のグループミーティング、障害者スポーツに関する筑波大学との共同研究、スポーツ施設の現状についてそれぞれまとめました。まず、スポーツ活動に関する調査についてですが、こちらは市民アンケートです。18 歳以上の人に対するスポーツ活動では、成人の週 1 回の実施率は、前回のアンケートと同数値で目標値を達成することはできませんでした。スポーツを実施した人は、道路や自宅などでジョギングや軽い運動を身近で行う人が多い傾向にありました。また障害者スポーツに関しては、関わりを持った人が非常に少ない結果となりました。障害者手帳保持者に対するスポーツ活動調査については、週 1 回のスポーツの実施率は、前回の実施率を下回る結果となりました。実施したスポーツについては、成人と同じ身近で行った方が多い結果となりました。障害者スポーツに関する環境の満足度についての質問はわからないと答えた方が半数を超え、認知度の低さを改めて実感することとなりました。

12 ページは、小中高校生のスポーツ活動の結果です。スポーツが好きや、好きと答えた学生は 75.4% に上ります。また、授業以外でのスポーツの実施率では、部活やスポーツクラブなどで約半数の学生が実施している結果となりました。今回部活動の地域移行についての質問もありましたが、約 4 割が否定的な意見という結果となりました。

次の 13 ページです。スポーツ団体のグループミーティングの結果です。こちらは「スポーツを楽しむ」、「障害者スポーツの推進」、「子供のスポーツの振興」という 3 つのテーマにグループを分けまして、ディスカッション形式で行いました。それぞれのグループからは、様々な意見が出ましたが、運営スタッフや指導者など人的な課題や、施設に関する課題などが多く出され

ました。さらに、グループミーティング自体についても「これまでなかった、交流を深める良い機会となりました」というようなご意見も多く頂戴いたしました。

次、15 ページです。障害者スポーツに関する、筑波大学との共同研究についてです。本日ご参加いただいております齊藤先生や、澤江先生にご協力をいただきまして、現在進行形で、障害者スポーツレクリエーション活動を推進するためのニーズや課題の調査研究を実施しております。この研究では、障害者施設やスポーツ施設に対してアンケート調査を実施しましたが、とても低い回答率で、ある意味その回答率の低さが大きな課題とも言えるかと思えます。次回の審議会では障害者スポーツサポーター養成講座の結果や、これから実施するモニター調査の結果等につきましてもご報告できるかと思えます。

最後に 16 ページはスポーツ施設の現状についてです。現在、多くの市営スポーツ施設があります。また、市営化に向けて検討が進められている洞峰公園にも、スポーツができる施設が備わっております。どの施設においても、休日の稼働率が高いことに比べ、平日が低い傾向にあります。平日の夕方や休日に予約が集中し、予約が取りづらい状況であることから、市民からは、予約方法の改善に関する声も寄せられております。説明は以上です。

○酒井会長：

はいありがとうございます。事務局から 1 から 3 まで説明がありましたが、一つずつご意見やご質問をいただいているかと思います。まず、「1 番のスポーツを取り巻く社会情勢の変化」というところの記述につきまして、何かご質問ご意見等はございますか。ここの部分は前提として押さえておくというようなことだと思いますが、特にこの国の動向や県の動向のところでは追記しておくべきこととかいうのはございますか。はい。高野さんよろしく願います。

○高野委員：

つくば市議会議員の高野文男でございます。スポーツ庁が創設されて、小学生、中学生、高校生の部活動のライフスタイルが非常に大きく変わってきて、そういう中で戸惑う保護者が多いようですけど、楽しむということが今スポーツに一番求められているものなのか。この辺りを支援者、市民から、様々な声を聞くものですから、スポーツは小学生、中学生、高校生ぐらいまでは楽しむというのが、1つの大きなテーマになっているのかをちょっと教えていただきたいなと思ひましてご質問をさせていただきました。

○酒井会長：

事務局からはいかがですか。

○事務局：

スポーツ振興課長の岡野です。部活動改革に関連しましては、国の方が今後地域クラブ活動への移行をしていくというようなことを表明しておりまして、来年から3か年が集中改革期間になっております。その中で、少子化に伴って部活動そのものが維持できなくなるだけでなく、勝利至上主義になり過ぎている指導の問題などが課題として挙げられています。そういったものの改善とともに、今おっしゃっていただいたような、楽しむということは原点かと思ひますので、そういったことにも着目して、この取り組みを進めていけたらと考えております。

○酒井会長：

ありがとうございます。高野委員いかがですか。

○高野委員：

楽しむということが一番の目的になりつつあると。教職員の働き方改革も含めて、2時間という時間が設定されて、特に高校野球とか高校生のスポーツは、ここには関係ないと思ひますが、高校スポーツになると時間の短縮で様々な問題が出ているようです。あくまでも短縮するということは、すごく

いい面と悪い面がございますけど、中学校の部分だと大会のあり方であったり、時間の配分であったり、すべてが平等にできるのかというところ少し難しいところあるだろうと思います。その点について、つくば市としての対応をお願いいたします。

○事務局：

スポーツ振興課長の岡野です。つくば市としては、今、特に学校の部活動を所管している教育局の方が中心となりまして、関係部局を含めた庁内で、そういった議論をまとめていく過程にあるところでございます。学校側で短縮された時間については、それ以外の部分でいかに補っていけるのか。一方でやはり過剰にやらせすぎるということは問題かと思っておりますので、そういったことにも注意をしながら、こういった形が一番いいのかということ、話し合っている最中でして、まだ具体的にお示しできる段階にはないのですが、検討を進めているという状況をお伝えさせていただきます。

○酒井会長：

よろしいでしょうか。他にはございますか。齊藤委員お願いします。

○齊藤委員：

齊藤です。2点、お願いします。まず1つ目。3ページのところの県の施策のところにはばらきサイクルツーリズム構想というのがあるのですけれども、県の構想で、私は大変面白いなと思っておりますが、この中に例えば、タンDEMだとか、あとハンドバイクみたいな、いわゆる障害のある方もサイクリングを楽しむという視点が全く入っていません。こういう県の施策に対して、つくば市はそういったものも含めて、自転車のまちつくばところであれば、そこを少し追記されてもいいのかなと。ぜひその辺りもご検討いただければと思います。

それから2つ目は単純にこれ多分誤植だと思うのですけれども、4ページ目の(4)。共生社会の実現のちょうど1つ目の段落の最後東京2030大会っ

てなっているのでこれは多分 2020 かと思われます。以上です。

○酒井会長：

はい、ありがとうございます。このいばらきサイクルツーリズム構想については、ここでは、こういったものがあるということを押さえておくという記述になっておりますので、これはこれでよろしいかと思いますが、つくば市として、今齊藤委員からご発言があったような障害者がどこに関わっていくかというような視点を持った事柄というのは市の方の対策として、考えていただければと思います。

よろしいでしょうか。ここの部分は、どちらかというと前提の部分ということになりますので、そのあとの部分が重要になってきますので、この前提の部分で、追記した方がいいというようなことがありましたら、個別に事務局の方にご連絡をいただければと思います。

それでは次の 2 です。「これまでの取組の実績と評価」というところについて、ご質問・ご意見等はございますか。この 5 番はしんどいですね。5 番の成果指標は、全部下がっていますが、これはコロナの影響が多分にあるというふうなことですかね。今後のアフターコロナの状況も見てみないとわからないということだと思います。

はい、木村委員お願いします。

○木村陸委員：

委員の木村ですよろしくお願いいたします。2 点お伺いしようと思いますが、1 点目は、酒井会長おっしゃられた成果指標についてやはりコロナが原因かなと思うので、これから上がるのは、皆さん期待している通りだと思います。これまでと比較できない数字なのかなと個人的には思っております。2 点目は、6 ページの 1 番の 1 番最後の部分に、スポーツ実施率の増加に向けての告知の部分で、SNS からの入手は一応に満たないという部分です。いろんなスポーツのイベントでやられていると思いますが、例えば、今月末、スピー

ドスケートコーチの方の講演会があると思うのですが、正直、私の同世代も含めて、知らない方がほとんどです。10ページの部分の学生の調査アンケートの部分に対して、インターネットの活用が進めば、アンケートの回収数も上がると思います。やはり周知の部分が変わってきていると思うので、その部分を今後どのような変化をもたらすつもりなのかをお伺いしたいです。これかなり多分低い数字だと思うので。ご検討いただければと思います。

○事務局：

ありがとうございます。実際に1割も満たないというアンケートの結果ですが、皆さんインターネットの活用は、それぞれされていらっしゃる方が多いかと思いますが、積極的に、市のスポーツの施策を検索しないというところも大きいのかなというところがあります。なので、いかに皆様に興味を持って探していただけるか、活用していただけるかというところが、一番大きな課題となってくるかと思っています。スポーツ振興課等でもSNSをやっていますが、アクセスが少ないというような課題もございますので、いかに皆様に興味を持っていただけるかを考えつつ、取り組んでいきたいと思っています。

○酒井会長：

はい。ありがとうございます。木村委員、どうぞ。

○木村陸委員：

やはり知っていただくところがまず重要になってくると思うので、いろいろイベントやっている中でやはり、来たいと考えている方にどれだけアプローチできるかが大事だと思うので、その部分大事にしていただければなどというふうに思います。

○酒井会長：

ありがとうございます。はい、事務局から。

○事務局：

成果達成をしていないところが、コロナが原因だろうということで御推測

をいただいているところで、我々もそれはあるだろうと思っはいるものの、成人のスポーツ実施率については、市民意識調査で2年に1度同じ質問をずっと続けていまして、この55%前後というのは、あまり上がり下がりをしていない状況にありますので、事務局からこういうことを言うのもなんなんですけれども、単純にコロナだけを原因にして考えていいのかというのは、若干危惧しているところではあります。少しテコ入れが必要ということでないかと我々は考えておりますので、皆様方のアイデアやご意見に期待をしております。

○酒井会長：

はい、ありがとうございます。他にはございますか。スポーツ協会で指導者の育成にこれから取り組もうというようなこともあります、萩原理事この辺のところ何か補足するところございますか。

○萩原委員：

スポーツ協会の会長の萩原です。今、検討を始めようとしていますが、独立的に何かやるというのは大変難しい状況ですので、できたら教育委員会等々、連携をできたらと思っています。いずれにせよできるだけ早い時期に、社会の流れに遅れないように検討していきたいと思っています。

○酒井会長：

ここの部分は非常に重要な部分で、スポーツ協会の方でも萩原会長主導のもと、何とかしていこうという動きが、始まっていますので、情報共有のためにお伝えしておきます。他、ございますか。

そうしましたら、ここの部分も追記しなければいけないということがございましたら、個別に事務局の方にお伝えください。次ですが3番のアンケート結果とグループミーティングの部分についてですが、ここについて何かご質問ご意見等はございますか。

そうしたら私から。このグループミーティングはいいですね。3回ほど

実施されているようですけども、非常に生きた声が上がっているというよう
な感じがします。これは、今後も何か続けていただきたいなと私自身は思っ
ているのですが、事務局の方はどうですか。

○事務局：

やはりご参加いただいた皆様からも、こういった場というのが、これまで
なかったということで、定期的にというお声をいただきました。今回はスポ
ーツ推進計画の策定を目的に行いましたけれども、それとは別に、またこう
いったことを企画ができたらという気持ちではいます。まだ決まったことは
ありませんが。

○酒井会長：

非常に有効だというふうな印象を持ちましたので、お声掛けいただければ、
私も参加したい思っています。

○事務局：

補足でよろしいですか。グループミーティングですが、テーマを決めて、
参加していただきましたが、今度はテーマを決めずに、いろんな方の情報交
換の場ですとか、一緒に連携して、障害者スポーツなどでも連携してできる
ことがあるのではないかというような意見をたくさんいただいていますの
で、そういった場を提供できるような形で、来年度、何回かできたらと考
えています。酒井先生はじめ相談させていただきながら進めていきたいと考
えております。

○酒井会長：

ありがとうございます。

次が今日メインになるのが次の部分だと思います。4番の課題の整理とい
うところにつきまして事務局の方から説明をいただければと思います。

○事務局：

課題の整理について説明させていただきます。先ほどお話をさせていただき

ました、社会情勢、これまでの取り組み、スポーツを取り巻く現状等から、見えてきた課題を次の通り、案としてまとめさせていただきました。1番、すべての市民が気軽にスポーツを楽しめる環境の整備。2番、障害者スポーツに対する理解や支える環境の整備と共生社会の実現。3番、子供の体力低下、すべての子供がスポーツ機会に恵まれる環境の整備、4番、スポーツ活動を支える指導者の人材育成、高齢化の顕在化、5番、施設の老朽化への対応や、維持管理の新たな維持管理の新たな施設の整備。6番、スポーツ活動に対する情報の周知、7番、大学や地域のスポーツ関係団体との連携協働の強化。8番、スポーツでのDXの活動活用となっております。私からは以上です。

○酒井会長：

ざっくりとご説明いただきましたが、細かい部分を含めて、重要だと思えますのでご意見いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

そうしたら私から。障害者スポーツのグループミーティング e スポーツについて、有効じゃないかというような意見が出てきていますけども、e スポーツについてまだ認知されていないところもあると思います。その点について、筑波大学の体育系ではこれを専門に取り組むようなプロジェクトも進んでおりまして、松井崇という者がいます。e スポーツはオリンピック協会でも注目をされておりますし、また、聞くところによりますと茨城県でも 2019 年の国体の時に e スポーツの大会もやっているというような話も聞いておりますので、最先端のことをやっていくべきつくば市としましては、向こう 10 年間の計画の中に、入っていないということが、逆に問題になるかもしれないというような気もしますし、その辺のところの皆さんのご意見というのをお聞きしたいです。

我々の世代で言いますと、子供にはゲームばかりしないで、外遊びなさいというようなことを言いながら育ててきましたが、そうではなくて身体的にある程度制約がある方、障害者の方であるとか、あるいはご高齢の方である

とかという人たちが、身体的な制約を受けずにスポーツを楽しめるというようなことあるかと思しますので、どのようなご意見をお持ちかというのをお聞きしたいと思いますが、この辺いかがでしょうか。大久保委員いかがですか。

○大久保委員：

市民部長の大久保です。会長の言う通りだと思います。私は鹿島アントラーズが大好きなんですけれども、鹿島アントラーズの中でも e スポーツのチームがありまして、e スポーツを推進しているようなところもありまして、非常にその辺のところは、これからを考えると大切だなと思っております。

○酒井会長：

この辺につきましていかがですかね。石黒先生どうですか。

○石黒委員：

すいません、勉強不足で、e スポーツってゲーム感覚でやるものですか。

○酒井会長：

それもありますが、今は脳科学の分野ではものすごく注目されています。

○石黒委員：

そうすると、先ほど会長がおっしゃったようにゲームというその概念から外さないと、なかなかこう取り込みづらいというか、保護者の目線ですと。だからその辺を周知できるようにしていったら、障害者の方たちも、それを堂々とスポーツとして関われるのかなというように、思っています。

○酒井会長：

結構、研究も進んでいて、人と人の絆みたいなところを観測する一つの指標としてオキシトシンというホルモンがありますが、e スポーツをお互いにやることによって、それが増加するなんていうような研究成果も出ていますので、一つご提案ですが、私も含めてですね、この問題についてはやっぱり理解が浅いです。これがスポーツかと、汗かいてやってきた人間としまして

は、そういう感覚というのものもあるわけですね。ですので、今熱心に取り組んでいる松井という助教がいます、生化学を専門的にやって、今世界的にトップランナーで研究していますので、できれば勉強会のような形、あるいはこういった審議会のところでも構いませんので、レクチャーを受けて、ここにいるメンバーが理解を深めるということも必要じゃないかなというふうに私自身は考えておりますが、これにつきましていかげんでしょうか。皆さんのご意見というのは。

○大久保委員：

はい、できることであればお願いしたいと思います。

○酒井会長：

その辺も含めて、こちらでデザインさせていただきたいと思いますので、事務局と相談をしながら、また別途集まさせていただくというのは大変かと思っておりますので、こういった会議の前とか後で、なるべく短い時間であまりお時間をお取りすることがないような形でデザインさせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

他にはございますか。はい。萩原委員。

○萩原委員：

事務局はこれだけの課題を抽出してきて、すごいなと思います。これは第2次スポーツ推進計画のために、抽出したのだらうと思いますが、この抽出された課題に対して、どんな方策を講じていくかということ、全部やるということはとても難しいです。ですから、それを年度単位で少しずつ解決をしていくような方策を、具体的に何をするのかということ、考えていただければ、きっとこういうものが実現されていくのだらうと思います。ここまで抽出されるだけで、とても苦労されたということがよくわかりますが、だからこそ、ここまで抽出した課題をどう生かしていくか、あるいは解決していくかというところへ一歩踏み出して欲しいなと思います。これは希望でも

あります。

○酒井会長：

はいありがとうございます。これは次のステップですね。この課題をどういうふうに解決していくかということで、全部やるのは大変だということですから。この抽出された課題に軽重をつけていくということになるかと思えます。どの部分を集中的にやっていくかというようなことも含めて、今後、議論をしていかなければと思いますが、幸い、ここの部分につきましては、令和5年度の第1回の時に議題になることになっておりますので、今日は、皆さんの方から広く課題を出していただいて、それについて、次回どこに軽重をつけていくのかというような作業をしたものを提出していただくというような段取りではいかがかと思いますが、事務局の方はいかがですか。

○事務局：

はい、ありがとうございます。今日のこちらの資料をグレードアップしたものと、課題の整理とあわせまして、次回の審議会でお示ししつつ、ご審議いただけたらと思います。

○酒井会長：

はい、ありがとうございます。今日のところは漏れがないように、広く課題を洗いざらい出していきたいと思えますので、ここが抜けていると、eスポーツもそうでしたが、ご指摘をいただければと思います。特にこのアンケートで出てきてないところで、漏れている部分があればよろしく願いたします。木村一男委員はいかがですか、ここ欠けているというところは。

○木村一男委員：

eスポーツという話がありましたけれども。茨城国体であった種目で、確か囲碁とか、チェスとかあったような気もするのですが、そういった脳のスポーツと言えばオセロとか将棋とか麻雀とかも、スポーツというくくりになるのかなと思うのですが。その辺は、どういう扱いになるのかなと疑

問に思いました。

○酒井会長：

当然そういったご質問というのが出てくると思います。ですので、我々がそれに対してクリアに答えられるように、次回専門家からレクチャーを受けたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。他に何か漏れているところはありますか。片岡委員はいかがですか。

○片岡委員：

片岡でございます。課題の整理の(1)の最後に、「する」、「みる」、「ささえる」のバランスに偏りがあるというところがございますけれども、学校体育におきましてはこの三つに、最近「しる」というのが加わりましたので、おそらく「する」、「みる」、「ささえる」の基盤となるものが、「しる」になります。ルール等々含めまして知らないとできないということもありますし、見ても楽しめないとか支えられないというのがあると思います。あるいは逆に、すること、見ること、支えることによって、文化としてのスポーツを知ることや、スポーツの価値や重要性を知ることがあると思いますので、知るという視点も一つ入れたらいいのかと思いました。

その時に、「しる」というところでは、この(3)にも繋がると思いますが、スポーツを推進するためには環境整備だけではなくて、人に対する働きかけや動機付けですとか、教育啓発というものがないと幾ら環境整備をしても、自発的にスポーツをしないというところがありますので、そういった教育面のアプローチというのが重要になるのかと思いました。萩原委員もおっしゃいましたけれども、スポーツを推進する方策を考えていくときに、印象論とかではなくて、エビデンスベースでやっていかないといけないと思いますので、理論的な、例えば、行動変容モデルのトランスセオレティカルモデルというのがありますが、スポーツに無関心の人にまず関心を持たせる、そして関心を持たせた人にスポーツを実行させる。さらに実行した人をいかに継続

させるかという3つのステージがあります。そういった段階を踏んで、それぞれの段階においてどういうアプローチが必要かというのも、具体的に考えていく必要があるのかと思いました。

○酒井会長：

事務局の方から今のことについて何か。

○事務局：

これスポーツに限ったことではないですが、昨今 EBPM ということで、エビデンスベースで政策立案をしていくということが、説明責任の観点からも求められています。スポーツにおいてそういったことをできる環境の強みというのは、つくば以外ではあまりないのではないかと考えていまして、先ほどの e スポーツについても、それはスポーツなのか、あるいはそもそも産業活性化みたいなことで取り組まれている面も大きいのですが、ぜひスポーツの面から、こういう効果がアウトカムとして期待できるとか、そういうことがあることによって、スポーツに位置付けていくことができたり、あとはすごく重要なご意見を片岡委員の方からいただきましたけれども、我々は無関心層に対してアプローチができていないので、全く数字が伸びないのだという仮説を持って今臨んでいますので、知る機会や教育啓発のところの力を入れていく。そういったところは非常に重要だと思いますので、そこに根拠を示していただくというようなことを、筑波大学はじめ皆様方と一緒にできたら、次期計画はより良い未来に向けて素晴らしいものになるのではないかと考えておりますので、非常に期待をしているというか、事務局にもこういったものを調べた方がいいとか、アドバイスもいただければと思います。ありがとうございます。

○酒井会長：

ありがとうございます。体育スポーツ関係の科学的な研究で、筑波大学は日本でトップですし、私も筑波大学に勤めておりますので、橋渡しをしてい

くこともできると思います。先ほどの e スポーツの話ではないですが、何か必要なトピックスがあれば、勉強会のようなことも含めて、やっていければと思います。

他にご意見がある方。萩原委員お願いします。

○萩原委員：

先ほど希望というふうに申し上げたのですけれども、ここに抽出された案件についてはすでにスポーツ振興課等でも実施しているところもありますので、そこは希望というふうに申し上げましたけれども、委員の皆さんにも、すべてが原点にあるわけではなくて、すでに行政としても実施しているところもあるというところもご理解をいただければと、補足をさせていただきます。

○酒井会長：

はい、ありがとうございます。他ですね環境の整備とか、野村委員はいかがですか。

○野村委員：

私も e スポーツの施設の話が出たときに、何か設備ができれば、すごく嬉しいと思いました。

○酒井会長：

向こう 10 年のことを決めようということですので、野村委員のような若い方の意見が非常に重要になりますので、どんどん遠慮せずに発言していただければと思います。

○野村委員：

e スポーツのゲーム私もやりますが、今は大会などもあり、また、プロチームがあって、野球観戦やサッカー観戦くらい見ていて盛り上がります。なので、そういう施設ができたなら、もっと盛り上がるのではないかと思います。

○酒井会長：

はい、ありがとうございます。高野さん。

○高野委員：

課題についてはですね、この最後の 17 ページに書いてある課題は大なり小なり、あるんだろうと思っています。ただ、つくばのスポーツ環境というところでは、私旧荃崎町に住んでいますので、牛久市との比較が非常に多い地域でございます。そういったところを考えると、やはりつくば市は子供たちがスポーツをするにしても、非常に恵まれている環境にあるなということを実感いたしております。大学であったり、支援団体であったり、支援企業が非常に多く、またうちの息子がつくば FC にお世話になった時期もありましたが、やはり講師からいろいろ声をかけていただくことで、サッカーそのものが上達するのはもちろんなんですが、学力も向上しまして、そういった方々に指導していただけたということは大変素晴らしいことだと思います。そういう意味で茨城県内では非常に高いレベルのスポーツ環境だろうと思うんです。あとは気軽にスポーツができる場所も、これも多い方かと思ってます。ただ、どうしても立場上、この話になるんですが、長寿命化計画によって施設の老朽化に対応しているということですが、スポーツを「みる」、「する」、「ささえる」という中で、つくば市でスポーツを見て感動ができる場所ってどれだけありますかというのと、まずはつくばマラソンであったり、バレーであったり、もちろんあるのはあるんですが、やはりどの野球場を見ても内野席もない。陸上競技場が今度できてやっと何千席の席ができて、スポーツを見る環境、もしくはスポーツを見て感動する環境というのは我々の立場から見ると、課題と感じております。以上です。

○酒井会長：

はい今の件につきまして事務局の方向か。ありますか。今、こんなことやっているみたいなことでも構いませんけども。

○事務局（岡野課長）：

施設の整備につきましては、公共体育施設という部分では、今すぐに解決できるような形の取り組みというものは、例えば大きなプロチームのスポーツ大会ができるみたいな形に急にしようというような状況ではないんですけれども、実は昨日大学の先生方とお話する機会がありまして、大学スポーツ、筑波大学の体育会の部活動やチーム、酒井会長も剣道を教えてらっしゃいますけども、どの部もレベルが高い。筑波大学や市内、あるいは近隣を会場にして試合をする場面などもありますから、そういったことを見ていただくだけでも、相当高いレベルの観戦ができるのではないかと感じています。そういう環境は、すぐに作っていけるかもしれないというようなお話をしたところですので、まずはできるところから、そういったケースを増やしていく。施設の更新をしていく中でも、更新の際にはよりニーズの高いものに合わせたいと考えております。

○酒井会長：

ありがとうございます、よろしいですか。あともう1件ぐらい。齊藤委員、お願いします。

○齊藤委員：

スポーツ環境というところで、障害者スポーツも含めてなんですけれども、環境整備について、おそらく、これまでスポーツとあまり関係ないと言われている、例えば移動の問題ですとか、プログラムの問題など異業種とつなぐだとか、新しく作り上げていくというのが障害者スポーツの支える環境づくりの面ではすごく大事ななということが今回の調査からも出てきていますので、その障害者スポーツの課題の中に、そういうつなぐだとか創出するというのを加えていくと、次の課題に繋がるかというふうにも思いますが、いかがでしょう。

○事務局：

はい。ありがとうございます。ご意見は参考にさせていただきたいと思

ます。

○酒井会長：

はい。ありがとうございます。大体意見も出尽くしておりますかね。私自身、つくば市のスポーツ推進というのは、やはりこの日本の中でトップランナーであってほしい。そうなるためにこのスポーツ推進審議会があると思っております。今回の会議に当たりまして、市の職員の方々が非常に丁寧に、段階を追って、私から見ると非常に隙なく、準備を進めてきていただいております。そういう面からいきますと、スポーツ分野でのトップランナーに、これからなっていけると私は感じております。また、そうなっていただくために皆さんにご協力をいただきたいと思います。まず、今日会議をするに当たりましてご準備いただきました方々に、お礼を言わせていただきまして、この会議は私の方で締めさせていただきますと思います。

○事務局：

それでは酒井会長議事進行ありがとうございました。以上をもちまして、令和4年度第3回つくば市スポーツ推進審議会を閉会いたします。ありがとうございました。